

新たにオーブとして期待を集めているのが、紅三尺と赤嶺というブドウを



果、土の病気の感染を防ぐために、一本の木から根は近いかもしれない。張る範囲が広がらない（井上達也）

「石垣牛」関東で拡販

食肉販売のミートコンパニオン（東京都立川市）は沖縄県の八重山諸島で育った「石垣牛」を関東圏で本格販売する。JAおきなわと連携し、スーパーや外食店への供給を増やす。来年秋には沖縄県内に処理施設を整え、物流費を引き下げる。これまで地元で大部分が消費されてきた石垣牛を大消費地で拡販し、ブランド浸透を図る。

沖縄で処理施設整備 物流費の削減狙う



地元の稲わらやサトウキビを与えて育てている

ミートコンパニオンは、沖縄県のブランド牛「おきなわ和牛」の展示即売会を10月下旬、埼玉県和光市で開いた。4回目となる今回は石垣牛6頭を初めて出品し、枝肉1頭1600～2500円で取引された。成城石井や東急ストアなど関東を地盤とするスーパーのバイヤー、食肉卸業者らが参加した。

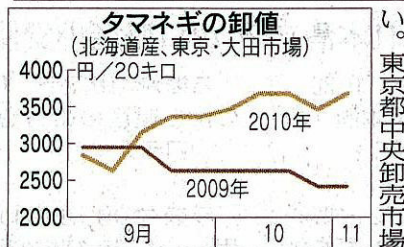
来年には沖縄県内で展示即売会を開催する予定

石垣牛は地元の稲わらやサトウキビを加えた飼料によって育てた黒毛和種の和牛。「良質の脂がのって雑味がなく、さっぱりしている」（ミートコンパニオン）。これまで首都圏には年に2回、数頭ずつ出荷されるだけだった。

JAおきなわ八重山地区畜産振興センター（石垣市）によると約1300頭が飼育され、今年度

に切り分ける設備を増強の出荷頭数は約600頭。現在は生きた牛を埼玉県にある同社の関連会社へトラックなどで運び、枝肉に処理しており、1頭あたり7万～8万円の運送費が掛かっている。産地の近くで切断してパックに詰める体制を築き、物流コストを抑える。

石垣牛は地元の稲わらやサトウキビを加えた飼料によって育てた黒毛和種の和牛。「良質の脂がのって雑味がなく、さっぱりしている」（ミートコンパニオン）。これまで首都圏には年に2回、数頭ずつ出荷されるだけだった。



タマネギ卸値 前年比52%高 北海道産が不作

タマネギの卸値が高騰している。東京都中央卸売市場が2年連続の不作となつたのが背景。東京市場の10月の北海道産タマネギの入荷量は前年同月比1割少ない。出荷できる品質のものが減ったうえ、小玉が目立つという。九州の産地で新物の出荷が始まる来年春までは北海道産の貯蔵物が中心となるため、高値傾向は当面続く見通しだ。

主な業務用	
（先週金曜時点）	
〈コメ〉	（卸間、玄米、一般）
コシヒカリ	（新潟、一般）
あきたこまち	（秋田）
きらら397	（北海道）
〈生鮮野菜〉	（大田市場、）
キャベツ	（千葉産、10円）
レタス	（茨城産、10円）
根葱	（千葉産、10円）
大根	（熊本産、4円）
タマネギ	（北海道産、20円）
〈輸入果実〉	（仲卸、現貨）
バナナ	（フィリピン産、）
パレナ	（アリゾナ産、）
グレープ	（フロリダ産、）
オレンジ	（オーストラリア産、）

秋田や福島県

コメ農家に資金支援

価格下落対策 低利融資など

【福島】秋田県や福島県による交付金が支払われ、県がコメ農家向けの資金を12月までのつなぎ資金として貸し出す。コメの価格下落対策として、低利融資などを行う。

必要経費を盛り込み、融資枠12億円を始めた。出荷するコメ60キロ当たり1800円を上限に貸す。福島県も4日、無利子融資制度を設け、個人の場合300万円を上限に、今年月中旬にも貸し出しを始める。秋田県も0



NZ産アボカド売り込め

ニュージーランドのアボカド生産会社「アバンザ」の販売を強化する。スーパーなどの試食販売やパンフレット作製を通じ、同国産アボカドの認知度を高める。3年後に対日輸出を昨年実績比4.4倍の5500トン程度に増やす考えだ。

対日輸出強化 4.4倍目指す

カドは油分が多く、濃厚でクリーミーな味わいが特徴とされる。日本の昨年の輸入量は1236トンと2004年の4倍に増えた。ただ販売時期は10月から翌年2月までに偏っている。日本のアボカド販売に占めるシェアは4%と、通年出荷のメキシコ産（91%）に大きく引き離されていた。アバンザはスーパーなど